

HUS, TTP はその発症に血管内凝固機転が関与すると考えられているが、最近の凝固機転に関する検討の結果では、classical DIC と異なり、platelet consumption の亢進が主たる機転と考えられてきている。

このような血管内凝固機転を起こす誘因として HUR, では感染症, TTP では感染症及び基礎疾患として悪性高血圧, SLE が報告されているが、直接の機転については未だ十分な解明はなされていない。

今回我々が行った蛍光抗体法検索では、HUS, TTP 共に  $\beta_1C$ , Immunoglobulin の糸球体及び血管壁への沈着を認めており、最近、Mcloy さんも HUS においては同様に  $\beta_1C$ , Immunoglobulin の沈着を報告している。このような結果より我々は、HUS, TTP のいずれにおいても、一次的又は二次的に免疫過程が関与する可能性があり、さらに今後の検討が必要と考えている。

## 小児急性腎不全の臨床的検討

都立清瀬小児病院 腎臓科 伊藤 拓

協同研究者 都立清瀬小児病院 臓腎科 長谷川 理 青才文江

泌尿器科 川村 猛 長谷川 昭

大城 尚史 森口 隆一郎

都立清瀬小児病院において昭和45年4月以降の6年間に経験した20例の急性腎不全症例について以下の臨床的検討を加えたので報告する。

### I. 原因疾患, 年齢別頻度

表2の如く mechanical obstruction を主とする泌尿器科的疾患及び glomerulopathy, vascular nephropathy が小児期の主たる原因疾患であった。発症時期では新生児期に cortical necrosis, acute tubular necrosis 及び先天性尿路奇形への感染合併などによるものが、乳児期では HUS が、学童未では glomerulopathy が最も多い疾患であった。

### II. 治療および予後

表3の如く mechanical obstruction による3例は外科的処置により急性期を脱しており、その他の17例中12例は透析治療を行っている。その結果20例中14例が急性期を脱し、1例が死亡、3例が改善なく長期透析へ移行している。このように短期予後では明らかな改善が認められているが、長期予後では表4の如く、腎機能が正常又は軽度以下のもの10例のみで、8例が慢性腎不全に移行し、腎不全以外の原因により2例が死亡している。

即ち、長期予後では主として、rapidly progressive glomerulonephritis, TTP などにおいて、末期腎不全に進行する症例が多くこのような疾患に対する対策が当

表 2 20 Children with acute renal failure

	<1 yr	1~5 yrs	6~10 yrs	>11 yrs	Total
Glomerulopathy		1	2	2	5
Vascular nephropathy	2	2	1		5
Tubulopathy	1		1		2
Mechanical obstruction	1	1	1		3
Miscellaneous	1		2	2	5
Total	5	4	7	4	20

表 3 Treatment & prognosis to 20 children with acute renal failure

	Treatment			Short-term prognosis		
	conservative	dialysis	surgical	improved	not improved	expired
Glomerulopathy	0	5	0	3	2	0
Vascular nephropathy	3	2	0	5	0	0
Tubulopathy	0	2	0	2	0	0
Mechanical obstruction	0	0	3	3	0	0
Miscellaneous	2	3	0	3	1	1
Total	5	12	3	16	3	1

表 4 Present status of 20 children with acute renal failure

	GFR >60% of normal	Chronic renal failure		transplanted	expired
			on dialysis		
Glomerulopathy	1	1		2	1
Vascular nephropathy	3	2	(1)	0	0
Tubulopathy	2	0		0	0
Mechanical obstruction	2	0		0	1*
Miscellaneous	2	2	(1)	0	1**
Total	10	5	(2)	2	3

\* died from brain metastasis of malignant lymphoma (GFR, WNL)

\*\* died from sepsis leading to acute renal failure

面する最も重要な臨床的課題と考えられる。そのためには、末末腎不全に対する透析、移植治療とともに腎不全

の進行を阻止する薬剤療法を含めた積極的検討が必要と考えられた。

## Severe nephritis に対する methylprednisolone pulse therapy について

都立清瀬小児病院 腎臓内科 伊藤 拓

協同研究者 都立清瀬小児病院 腎臓内科 長谷川 理 青 才 文 江

病 理 初鹿野 浩

Severe nephritis の 2 例に methylprednisolone pulse therapy を試み、その効果を検討したので、報告する。

第 1 例は 4 才 5 ヶ月の女児で、昭和 51 年 6 月より purpura nephritis による rapidly progressive glomerulonephritis に罹患し、腎機能の低下を認めたため、昭和 51 年 8 月、9 月、12 月の 3 回 methylprednisolone 450 mg/dose × 6、隔日静注を行った。

第 2 例は 16 才 6 ヶ月の女児で、昭和 43 年 7 月発症の

第 2 例は 16 才 6 ヶ月の女児で、昭和 43 年 7 月発症の

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

都立清瀬小児病院において昭和 45 年 4 月以降の 6 年間に経験した 20 例の急性腎不全症例について以下の臨床的検討を加えたので報告する。